

# 1 地上デジタル移動体向け(1セグメント)放送の現状と課題

## 1.1 現状

地上デジタル放送は、2003年12月から関東、中京及び近畿の三大広域圏で放送が開始されている。

北陸地域においては、2004年10月からNHK富山放送局及び北日本放送が放送を開始した。また、2006年5月にはNHK福井放送局、福井放送及び福井テレビジョン放送、7月にはNHK金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送及びテレビ金沢、10月には富山テレビ放送、チューリップテレビ、北陸朝日放送が本放送を開始する予定である。(図1-1 参照)

携帯電話や携帯受信端末向けの地上デジタル放送移動体向け(1セグメント)放送(以下、「ワンセグ」という)については2006年4月に三大広域圏及びNHK富山放送局、北日本放送などの放送事業者が本放送の開始を予定している。また、2005年12月に、「ワンセグサービス開始ロードマップ」が公表(デジタル放送推進のための行動計画(第6次) 地上デジタル推進会議)され、全国各都道府県におけるサービス開始時期が明らかになった。2005年12月にはすでにワンセグが受信出来る携帯端末も売り出されている。

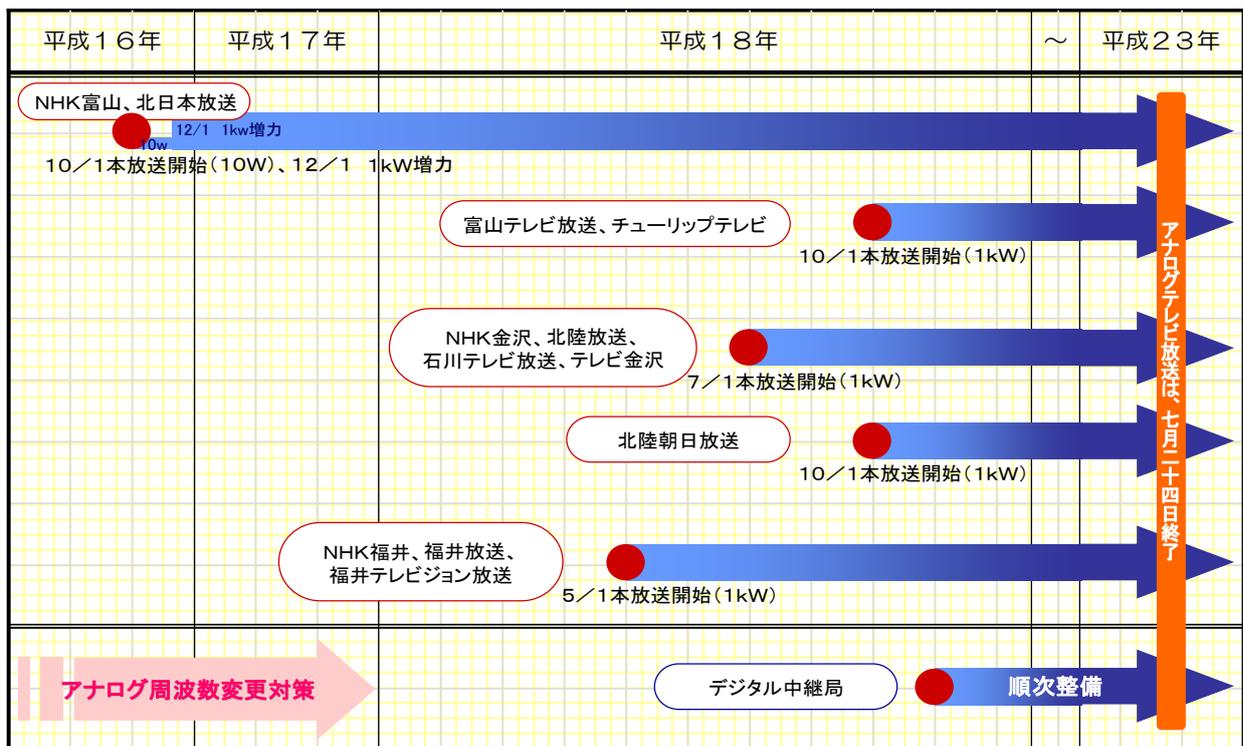


図1-1 地上テレビジョン放送のデジタル化のスケジュール

このワンセグは、6MHzの放送帯域を13セグメントに分割した1セグメントを使用して、携帯電話や携帯受信端末に組み込まれた小型の移動受信機へ放送するサービスであり、いつでもクリアな映像を受信可能なこと、移動中でも安定したサービスの利用が可能なこととなっている。(図1-2-1 参照)

また、移動体向けデータ放送とインターネットへの接続等の携帯電話の通信機能と組み合わせる

ことにより、通信と放送を連携したサービスを行うことが可能である。さらに、非常災害時等の緊急警報放送サービスなどへの活用も期待されている。(図1-2-2 参照)

なお、デジタル携帯端末の普及予測として、2011年には最高で4600万台の普及が見込まれており、身近な個人向けの移動端末として、今後期待されている。(図1-3 参照)

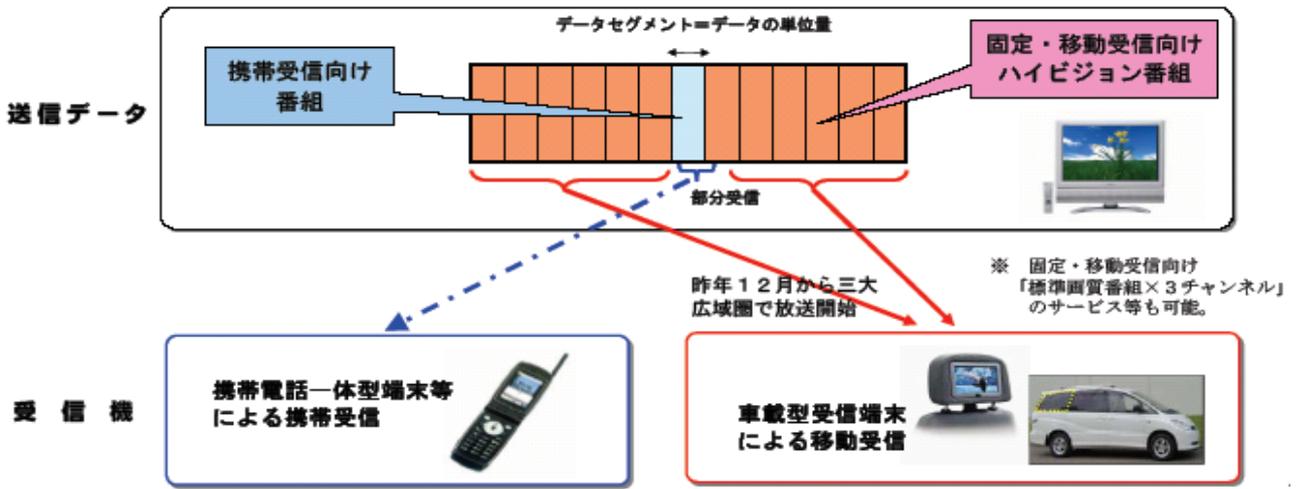


図1-2-1 ワンセグの概要図

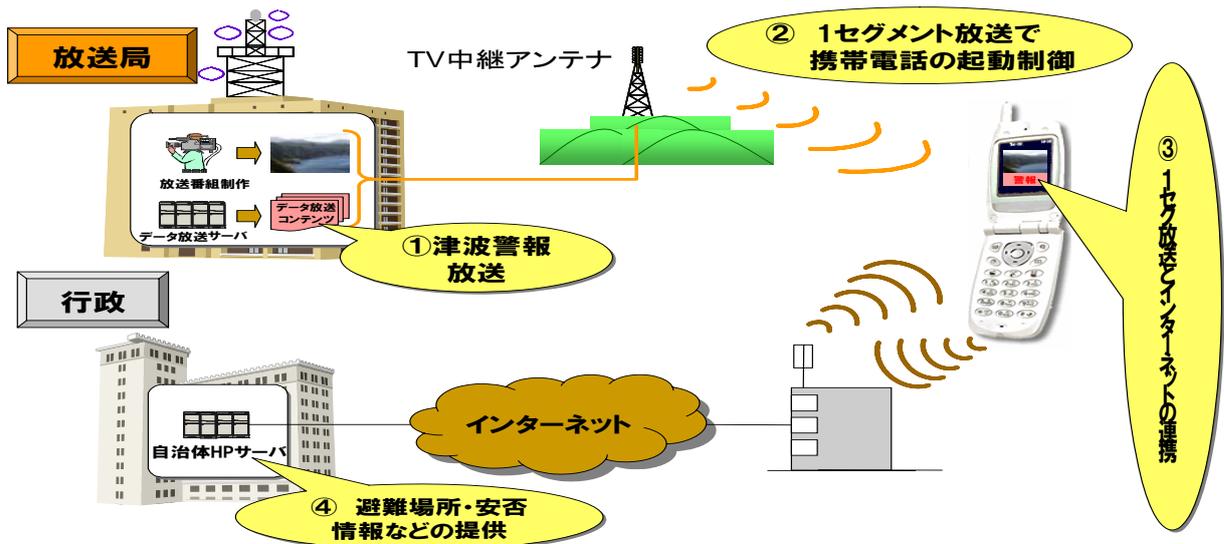


図1-2-2 1セグメント放送とインターネット連携による防災情報提供の概要

(出典:情報通信審議会情報通信政策部会 地上デジタル放送推進に関する検討委員会資料より)

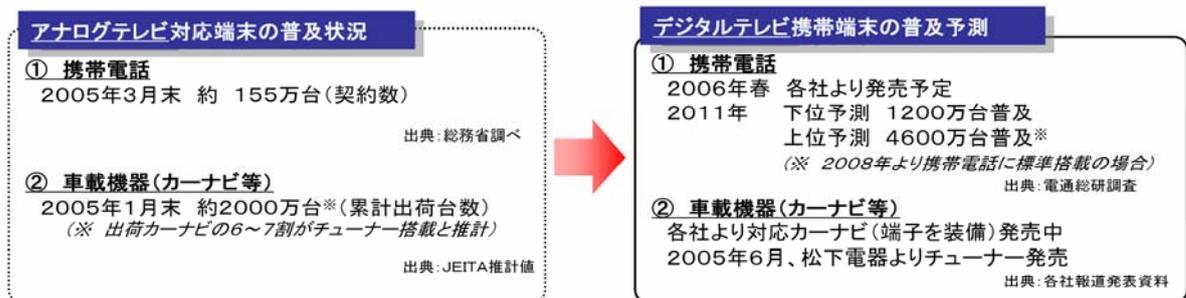


図1-3 デジタルテレビ携帯端末普及予測

## 1.2 課題等

ワンセグは、携帯電話や携帯受信端末に組み込まれた小型の移動受信機などでの移動受信が主体となるため、固定受信に比較し受信条件が悪くなることが想定される。

特に、北陸地域では冬期の積雪等により、閉塞空間となっている駅ホームやバス停の待合室及び地下街等の利用が増えるが、これらの場所では受信が困難となることが想定されることから、ワンセグの普及促進を図るためには、このような不感地帯解消が不可欠となっている。

この不感地帯解消には、ギャップファイラー（中継装置、以下ギャップファイラーと呼ぶ）の設置が有効と考えられるが、

- ① 一般の固定受信への影響
  - ② 送信出力と送信アンテナの検討及び1セグメントの伝搬特性
  - ③ 安価で効果的方法の検討
- などの課題が挙げられる。

このため、本調査検討会では、地上デジタル放送を開始している富山県のフィールドを利用し、不感地帯を解消するためのギャップファイラーに関し、その有効性の検証及び技術基準の策定に資するための調査検討を行った。（図1-4 参照）

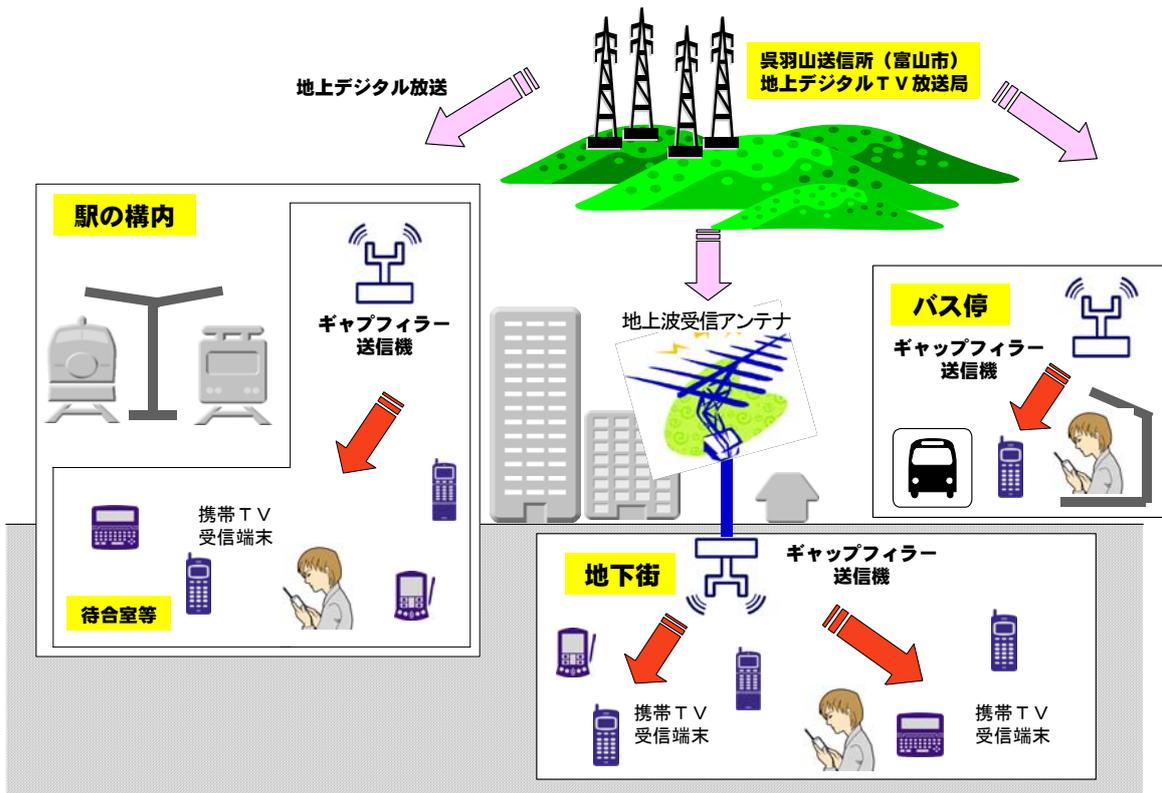


図1-4 地上デジタル移動体向け(1セグメント)放送の不感地帯解消のためのギャップファイラーに関する調査検討イメージ図